

2月1日（月）の全校集会の話

「節分」とは

明日、2月2日は「節分」です。多くの家庭で「豆まき」をします。日本古来の風習ですが、古代中国の行事が奈良時代に日本に伝わりました、平安時代には京都御所の宮中行事として行われるようになり、室町時代中期以降に定着したとのことです。江戸時代になると、現在のような「豆まき」の行事が一般の人々の間に広まりました。

古くは平安時代のころから日本人に親しまれているという「節分」ですが、元々は「季節の分かれ目」という意味で、「立春」「立夏」「立秋」「立冬」の前日を「節分」と呼んでいました。そのうち、旧暦の正月にあたる「立春」の前日だけが行事として残り、「立春」の前日を特に「節分」と呼ぶようになりました。

例年、「節分」と言えば2月3日ですが、今年は、2月2日になっています。なぜなのでしょう？「節分」が早まっているそのわけは？

「太陽の周りを地球が1周する1年、このことを天文の世界で「1太陽年」と言うそうです。でも、実際は、365.2422日なのです。実は、地球は太陽の周りを1周するのに、365日より長くかかっているのです。

もし「1太陽年」が365.25日であれば、4年に1度、366日となる「うるう年」を入れるだけでズレを修正できるのですが、「.2422」という半端な数字のため「うるう年」だけではズレが解消できません。時間にするとおよそプラス5時間49分で、そのズレが積もっていった結果、節分の日が2月3日の前後に変わることが起きてくるとのことです。節分が2月2日になるのは明治30年、1897年以来、実に124年ぶりの出来事だそうです。

「鬼は外、福は内」と言って豆をまくのは、季節の変わり目は、鬼などが集まり、疫病や災いをもたらすと昔は考えられていて、豆をまくことで家族のみんなが安全で健康に1年を過ごすことができるようにと祈ったことからと伝えられています。また、「豆をまく」というのは、農作業で畑に豆をまくしぐさを表していて、作物の豊作を願う気持ちが込められています。

ちなみに、巻きずしを丸かぶりするのは、大阪などの関西で行われているそうですが、その由来は、定かではないようです。大阪から始まったとも言われています。よければ、時間のある時に調べてみてください。

広い運動場の姿が見えてきました

仮設校舎が撤去され、運動場の整備が進んでいます。これだけ広い運動場は、大阪市内の中学校では少ないかと思います。整地作業が順調に進めば、近日中には使用できるようになるでしょう。生徒のみなさん、楽しみにしてください。

